

企画展示のご案内

2026 年(令和８)は、1946 年(昭和 21) ４月に女性が初めて選挙権・被選挙権を行使して 80 年に当たります。今期は**「女性と議会政治のあゆみ」**と題して、令和８年１月６日～令和８年８月 27 日まで２期に分けて開催します。

（通史編）令和８年　１月　６日（火）～４月 27 日（月）
※３月 25 日(水)15：00～16：00　ギャラリートーク開催（２F 展示室）
（事前申込・参加費不要）詳細は憲政記念館 HP をご覧ください
（人物編）令和８年　５月　１日（金）～８月 27 日（木）

初の女性大臣登場





初の女性衆議院議長

日本初の女性代議士 39 名





錦絵
「幻燈写心競　女史演説」（周延画）

女性の政治参加を求める動きは明治時代からはじまり、多くの人たちによって政治的諸権利の獲得運動が続けられました。戦後になって実現した後、今日に至るまでのあゆみを通史編として開催中です。

展示資料には、女性初の政党党首となり衆議院議長に選ばれた土井たか子、第１次池田勇人内閣で厚生大臣として入閣した中山マサなどのパネル、また、錦絵「幻燈写心競　女史演説」は、流行の幻燈写真をもじったもので、写し出された円には女性の胸中が描かれています。

この機会にぜひお立ち寄りください。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

次回は、令和８年９月１日から 12 月 27 日まで
「議事堂のあゆみ(仮称)」を紹介する予定です。

都会のオアシス　国会前庭へようこそ！

３月に入り国会の前庭は鮮やかな春色に彩られてきました。

ここは国会議事堂に隣接し政治の中心地に位置する、誰もが入れる無料の「都会のオアシス」です。

今号では、春を迎えた国会前庭で咲く花々の競演にスポットを当て、また、この地の意外な見どころや歴史について紹介していきます。

１．四季折々の花々

1966（昭和 41）年度に完成した国会前庭は、北庭（洋風庭園）と南庭（和風庭園）に分かれ、その敷地（約５万5,000 平米）には、日本さくらの会による記念植樹を含む多種多様な桜をはじめ、数多くの樹木と草花が植えられ、四季折々の美しい景色を満喫することができます。

憲政記念館のシンボルである時計塔が建つ北庭では、開花時期の異なる様々な桜を４月下旬まで楽しむことができます。

今年は２月に白梅、早咲きで濃いピンク色の河津桜と寒緋桜や啓翁桜が開花しました。３月中旬以降は染井吉野の薄紅色が庭を覆い、４月に入ると淡いピンク色の麒麟や、咲耶姫が八重咲の華やかな花を咲かせます。遅咲きの八重紅枝垂もみごとです。



皇居のお濠と霞が関を背景にした河津桜
（令和８年２月 27 日 撮影）

桜が散ったあとは、憲政記念館にゆかりのあるハナミズキや、ヒトツバタゴ（ナンジャモンジャ）の白い花が満開を迎え、時計塔の周囲にツツジが咲き誇ります。

夏は紫陽花、秋は橙黄色のキンモクセイが香り立ちます。

また、ソテツ、チリマツといった珍しい樹木もあります。

（桜花）

✿ 咲耶姫（さくやひめ）（北庭）

「古事記」に登場する、富士山の頂から桜の花の種をまいて花を咲かせた女神「木花咲耶姫（このはなさくやひめ）」に因んでこの名がついたと言われております。

４月中旬より開花し、花は八重咲き、白から薄い桜色で中心部が若干赤くなります。花が咲いているうちから葉が出てきます。



つぼみが開き始めた咲耶姫（３月 12 日撮影）

✿ 八重紅枝垂（北庭）

八重咲きで小輪の花を咲かせ、花弁の色は紅色。

開花は葉に先行します。







啓翁桜（３月４日撮影）

（３月 12 日撮影）

（憲政記念館ゆかりのハナミズキ）

1912（明治 45）年、当時東京市長であった尾崎行雄が米国ワシントン D.C.に日米親善の証として桜を贈り、その返礼として 1915（大正４）年、米国からハナミズキが贈られました。

尾崎行雄は、議会制民主主義と平和の重要性を一貫して説き、衆議院議員を 60 年７か月務めた「憲政の神様」と称される政治家です。

北庭のハナミズキは、尾崎の功績を記念して建てられた尾崎記念会館（のちの衆議院憲政記念館）の建設が決まった際、あらためて米国から寄贈されたものです。

４月中旬から５月上旬にかけ白色や薄紅色の花が、庭園内遊歩道の左右にみごとに咲き揃い、その清楚な花姿は多くの人を魅了してきました。





ハナミズキの遊歩道（４月）

なお、尾崎が贈った染井吉野など 3,000 本超の桜はポトマック河畔に植えられ、３月下旬から一斉に開花します。首都ワシントンに春を告げる一大イベントとなった全米桜祭には、桜のアーケードを見ようと毎年 150 万人以上が訪れ、同地は世界有数の桜の名所となっています。

紫陽花



初夏の国会前庭は新緑に彩られた風景が広がり、開花シーズンを迎える紫陽花の美しさが際立ちます。

ドラマの撮影でもしばしば使われる北庭には日本水準原点（後述）がありますが、その周囲に咲く紫陽花は一見の価値があります。

キンモクセイ



南庭では秋にキンモクセイがオレンジ色の小さな花をたくさん咲かせ、甘い香りを放ちます。

南庭は、鯉が泳ぐ大きな池のほとりに東屋があり、小川や滝も整備された、枝垂桜の美しい和風庭園です。



南庭（４月）



南庭の常連さん（青鷺）



南庭から見える国会議事堂（10 月）

（めずらしい樹木）

このほか、北庭にはソテツ、チリマツなどの巨木、高木があります。

ソテツは、樹高８メートル、約 20 株が密集状態に群生し数年おきに実をつけます。



ソテツ（手前）

チリマツは英語名を「モンキーパズルツリー」といい、猿も登るのに難儀するという、アンデス山地南部原産の珍しい樹木です。成長すると 50 メートルにもなるといわれております。



チリマツ

２．お勧めスポット

国会前庭の見どころは花々だけではありません。意外に知られていない建造物や国の重要文化財などに出会うことができます。

（三権分立の時計塔）

北庭に憲政記念館のシンボルである時計塔がそびえております。



「衆議院憲政記念館」の前身は、憲政功労者として衆議院より初めて名誉議員の称号を贈呈された尾崎行雄の功績を顕彰するために建設された「尾崎記念会館」です。

同会館は 1960（昭和 35）年、天皇陛下の御下賜金と国民各層からの寄付によって建設されました。

落成式にあたり、世界各国より様々な記念品が贈られるなか、スイスの時計業界から親子電気時計一式が寄贈され、高さ 31.5 メートルの時計塔が建てられました。

尾崎記念会館と時計塔はその後、衆議院に寄贈されます（現在の時計は国産品）。

時計塔が三角塔なのは、尾崎行雄の「立法・行政・司法の三権分立、互いに侵犯すべからざる事」という信念を象徴したものです。

３つの文字盤はそれぞれ国会、行政官庁、最高裁判所を向いて時を刻み、現在は 10 時、13 時、17 時の３回チャイムが鳴ります（衆参両院の本会議時刻、退庁時刻を標準としたもの）。

当初の構想では高さ 15 メートルでしたが、尾崎が徹底してやまない「会合

時間の厳守」の精神を周知させる意味から、建築基準法の上限であった 31.5 メートルとされました。奇しくも百一尺余りとなり、「百尺竿頭一歩を進める」の言葉どおり、努力の上にさらに努力を重ねる、という尾崎の進歩的思想をも表現しています。

（日本水準原点）

北庭にある石造りの建物の中に、国内の高さ（標高）の基準となる「日本水準原点」が設置されています。



1891（明治 24）年５月、陸軍の外局である陸地測量部（現国土地理院の前身）がこの地に水準原点を造り、東京湾平均海面から 24.5 メートルとしました。偶然にも水準原点が設置された年・月と一致していました（※）。

日本水準原点及び標庫は、「近代測量 150 年」の節目となる 2019（令和元）年、測量分野の建造物としては初めて国の重要文化財に指定されています。

（※）地殻変動を経て、現在の原点は 24.39 メートルに改定されている。

（電子基準点）



日本水準原点の隣に2018（平成30）年、国土地理院が設置した高さ７メートル強の電子基準点「東京千代田」があります。

わが国の準天頂衛星システム（みちびき）や米国の GPS などの衛星測位システムの信号を常時受信し、日本国の地球上での正確な位置を計測・モニタリングしています（国土地理院ウェブサイトより）。

３．地 歴

国会前庭（北庭）の住所表記は、東京都千代田区永田町１丁目１番地です。政治の中枢といえるこの地の歴史をみていきましょう。

（江戸時代）

現在北庭では、新憲政記念館の建設工事が進められておりますが、旧憲政記念館があった北庭の高台一帯は、江戸時代の初め、肥後熊本藩主加藤清正の屋敷が置かれた土地です。

その後、近江彦根藩井伊家の上屋敷となりました。大老井伊直弼がこの屋敷から登城する際、水戸浪士によって暗殺された「桜田門外の変」（1860（安政７）年）は、みなさんよくご存知だと思います。



また、井伊家上屋敷の表門には、江戸の名水として知られた「櫻の井」がありました。

歌川(安藤)広重「東都名所」シリーズの「外櫻田弁慶堀櫻の井」（1843（天保 14）年）にも描かれているこの井戸は通行人に豊富な水を提供し重宝がられたと伝えられております。



なお、2016（平成 28）年に移設され、北庭園内で見ることができます。

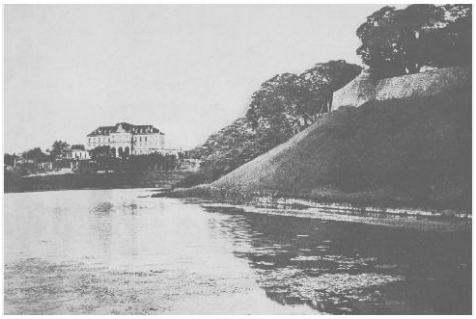


櫻の井（現在）

（明治以降）

北庭は明治維新後、新政府の陸軍用地となり、1881（明治 14）年には現在の時計塔周辺に陸軍の軍令を管轄する参謀本部庁舎が建てられました。

二・二六事件の政治的舞台となり、戦後、陸軍が解体されるまでの間も陸軍用地として使用されていました。



当時の陸軍参謀本部（写真左奥）

（戦　後）

1952（昭和 27）年、国会前の土地は衆議院に移管され、その後国会議事堂周辺の整備計画が始動します。北庭は東京オリンピック（1964（昭和 39）年）を目途に緊急整備が図られ、翌年度より南庭に日本庭園の造成が開始され、1966（昭和 41）年度、北庭と南庭の整備が完了しました。

同年度末、国会前庭の管理主体は、建設省から衆議院に移り、国会議事堂の前庭としての品位を守りながら、現在に至ります。

（2030 年春の姿）

現在、新たな憲政記念館の建設工事が進められています。新館は旧憲政記念館のあった北庭に、国立公文書館との合築施設として、2030（令和 12）年春に開館する予定です。

新施設には庭に面した一角に「団体休憩所」とレストランができ、四季折々の景色をゆっくりとお楽しみいただけます。

そして、前庭散策の前後には、ぜひ憲政記念館にお立ち寄りください。

皆様のご来館をお待ちしております。



国会前庭（北庭・南庭）と周辺の様子



【発　行　人】　中 居 健 吾　【印刷・発行】 衆議院事務局　憲政記念館
【編集責任者】　神 薗 直 子　　〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-8-1
TEL：03-3581-1651

本紙について、私的利用・引用等著作権法で認められた行為を除き、無断で改変・転載・複製を行うことはできません。引用される場合には出所を明示し、また、転載等を行う場合にはあらかじめ当館へご連絡ください。